

平成 2 2 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 地方生活バス路線維持費補助金
-------------------	-----------------------------

区分	番号	名 称
章	4	調和の中でふるさとを演出するまち
節	3	道路交通網の整ったまちをつくる
施策	1	総合的な交通網の整備
小分類	2	交通手段の確保
主要な施策	1	人にやさしい交通手段の確保
事務事業番号	001	事務事業コード 43121001 事業開始年度 平成 1 3 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	生活交通路線維持対策事業費補助金
------	------	------------	------------------

部 名	市民生活部	グループ名	市民サービス G
-----	-------	-------	----------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffff00;">(事務事業の実施目的を具体的に記載してください)</p> 地域住民の生活に必要なバス路線の維持が困難となっている現状から生活交通路線の確保方策の一環として、国と地方公共団体が適切な役割分担を図りつつ、生活路線として必要なバス路線の運行の維持等を図るため助成措置を講じ、もって地域住民の福祉を確保する。
手段 (事業の内容・活動)	<p style="background-color: #ffff00;">(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください)</p> 市内路線及び複数市町村路線のうちの赤字路線について、一定のルールに基づき算出された金額を補助金として交付する。  補助対象期間等 平成 2 1 年 1 0 月 3 0 日から平成 2 2 年 9 月 3 0 日までの運行実績に基づく。 補助対象運行系統数 ・ 複数市町村路線 1 系統 ・ 市内路線 8 系統 補助金決定額 4, 3 8 6, 0 0 0 円 (内訳) ア 複数市町村路線 (補助率 2 分の 1) ・ 6 6, 0 0 0 円 イ 市内路線 (補助率 2 分の 1、ただし、登別温泉 - 登別駅間は 4 分の 1) ・ 4, 2 6 7, 0 0 0 円 (補助率 2 分の 1)
成果	<p style="background-color: #ffff00;">(事務事業の実施成果を具体的に記載してください)</p> 自家用車の普及等による利用者の減少に伴い、生活バス路線の維持が困難になっている中、本補助金を交付することで、特に学生や高齢者などの交通弱者と言われる方々の生活交通路線の維持・確保を図る。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffff00;">(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください)</p> 登別市生活交通路線維持対策事業費補助金交付要綱

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実 績	23年度 目 標	24年度 目 標	25年度 目 標	26年度 目 標
成果 指標	補助対象路線 (「対象なし」が望ましい)	路線	目標値	8	8	8	8	8
			実績値	9	/	/	/	/
			目標値		/	/	/	/
			実績値		/	/	/	/

## 事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	4,386	5,241	5,005	5,005	5,005	15,015
合 計				4,386	5,241	5,005	5,005	5,005	15,015
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	80	82			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		80	82			

## 担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 特に高齢者の日常生活や学生の通学等に必要生活交通路線を維持するためには、自治体の乗合バス事業者への財政支援は必要です。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 乗合バス事業者は民営のため、当然、路線維持の判断は損益状況が目安となるが、本事業による財政支援があることで路線の維持が図られていると考えています。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 上記「2」のとおり生活交通路線の廃止がなく、常に路線の維持が図られていることが成果の向上と考えます。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 予算額は、毎年度の利用状況に応じて変動するが、金額の抑制策としては利用者を増加させる方法がある。しかし、本格的な高齢化社会を迎えても飛躍的に運転免許の自主返納等により利用者が増加するとは考えられないため、現状においては削減できる環境にありません。

## 担当グループによる評価

維 持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	1世帯2台以上の自動車の所有が珍しくない昨今、乗合バス事業者は利用者の減少で厳しい経営環境にありますが、一方では、公共交通機関の使命を果たす役割があります。このような中、高齢者や学生などの交通弱者の生活路線を確保するためには、自治体の財政的支援が必要不可欠なため、本事業を継続する必要があります。
-----	----------------------	--

## 総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維 持	備考
-----	----

### 評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）